

コチドリ(チドリ科) 全長16センチ

コチドリは、川の中州や海岸の砂丘、埋め立て地などが主な棲息地です。繁殖期にはつがいで縄張りを持ち、開けた砂地や砂礫地の地面に巣を作ります。

6月上旬、広い田んぼの中を縦横に走る農道で、コチドリの巣が見つかりました。道路上に巣を構えることは、例外的なことでしょう。



車から巣を眺めていたら、警戒して近付いてきた。
あっちへ行けと言っているようです。

農道の真ん中、小石を払い除けた直径6～7センチほどの浅い凹みがコチドリの巣で、まだ産卵前です。こうした凹みは5か所ほど作られていて、この中の1か所が産卵に使われます。時々農作業の軽トラやトラクターが通り過ぎますが、大丈夫でしょうか。

しかし、道路の真ん中の巣は踏みつけることはありませんでした。



車も人も、道路の真ん中では通らないようです。



直径6～7センチほどの浅いくぼみが5か所も見つかりました。

それから10日ほど経ってから、巣の中でじっとうずくまるコチドリを発見。遠くから軽トラがどんどん近づいてきます。早く逃げろ！。

ギリギリのところで親鳥が立ち去り、横の草むらに身を潜めました。こうして、人や車が通る度に一旦巣を離れやり過ごします。巣の中には、4個の卵が産み付けられていました。



僅かな枯草を敷き詰めただけの巣の中に、4個の卵がありました。



お腹の下には卵が見えました。

親のお腹の下には2羽の雛が見えます。無事に孵化していたのです。雛の大きさは、大人の親指ぐらいしかありません。風が吹けば飛ばされそうな弱小です。それでも立ち上がった雛は、歩き始めました。しかも、親から餌をもらうこと無く自分で探し始めたのです。なんと自立心の強い子供たちでしょう。



孵化した翌日ですが、ちょこちょこ動き回る雛。その足の早いこと早いこと。直ぐに見失ってしまいました。



散歩から戻ると、一目散に親のお腹に潜り込みました。

農道とはいえ1日に何回も車が通過します。そのたびに車に轢かれないよう、道路の真ん中か両端の草むらに逃げ込むなどしていたが、危なくて見てもらえません。

なぜこんな危険な場所を選び子育てしているのでしょうか。何かメリットがあるはずです。考えられるのは天敵対策で、時々車や人間が往来することからカラスも近寄りがたいのでしょう。